

新米値上げ 理解と不安



開店と同時に昨年産のコメを買い求める人たち
＝6日午前9時、伊達市・みらい百彩館んめ～べ

「概算金」大幅増額

「おいしいコメが食べられなくなる。価格上昇は仕方がない」。福島市の30代男性は、概算金の増額に理解を示した。男性は6日、伊達市の「みらい百彩館んめ～べ」で販売された県産の余剰米を購入、「買えてよかった」と安堵の表情を見せた。

余剰米の販売は、コメが品薄となっていることを受けJAふくしま未来が行った。同JAは23年産米42万トンを確保し、同日から管内4地区の直売所計10店舗で販売している。JAは「朝はいい、農家の利益が上がること、生産者の意欲も増すと思う」と期待する。

「消費者離れ心配」
福島地区米穀卸商業協同組合によると、概算金の上昇は販売価格に反映され、JAや業者の買い取り価格の差額が積み込まれるという。玉川さんは概算金が例年になく大幅な増額となり、「店頭価格が高騰し、消費者離れが心配される」と不安を語る。JA全農福島の担当者は、生産資材の高騰が続く農家の状況について「増額した概算金で生産コストだけをまかしても利益が出ない。農家の現状を丁寧に説明しながら、米価の水準を回復させたい」と理解を求めている。

新米の店頭価格の基準となる2024年県産米の「JA概算金」が前年度より大幅な増額となった。消費者からは価格上昇への理解や懸念の声がある中、コメの生産費上昇や後継者不足などの課題を抱える農家は「生産者の意欲も増すと思う」と切実な思いを語る。

消費者おいしいのなら 生産者利益上がり意欲

▲ 9月7日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

調べてわかったこと、考えたこと (330字程度)

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

コメも含めていろいろなものが値上がりしていますが、この状況を変えられる策は何かあるでしょうか。

